

# 自然公園公共標識の標準表示例 2015年版



自然公園公共標識の標準表示例 平成27(2015)年10月発行

環境省 自然環境局 自然環境整備担当参事官室  
〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2  
Tel. 03-5521-8281 Fax. 03-3595-0029

編集 自然環境共生技術協会

リサイクル適性の表示：紙へリサイクル可

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準にしたがい、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料〔Aランク〕のみを用いて作製しています。

# はじめに

## 本書の目的

近年、公共施設等においては、施設のユニバーサルデザイン化が急速に進められており、自然公園の利用施設においても、可能な限りユニバーサルデザイン化を計画的に推進していくことが重要となっています。

このうち自然公園の公共標識は、これまで「自然公園等事業に係る公共標識の整備指針（平成9年6月環境庁自然保護局）」や「国際対応標識整備手法検討調査報告書（平成16年3月環境省自然保護局）」などを参考として、情報の表示方法や多言語化、ピクトグラム使用の原則を示し、これらに基づいて順次整備を進めてきました。一方、標準となる表示例などが示されていなかったため、表示の内容や方法が統一されていない状況でした。また、ユニバーサルデザイン化を進めるにあたっては、例えば園路の縦断勾配や路面状況、通行の難易度など、施設利用に係る新たな視点での情報提供が求められていたため、「自然公園等施設技術指針（平成22年3月環境省自然環境局）」をまとめ、本標準表示例の初版を平成22年6月に発行しました。

さらに、平成25年6月11日に開催された観光立国推進閣僚会議において決定された「観光立国実現に向けたアクション・プログラム」の方針に基づき、観光庁では、各地域における多言語対応に関する取組の統一化を目的として、平成26年3月5日、「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」を策定し、関係機関に向けて取組強化を働きかけています。同アクション・プログラムでは、「外国人旅行者の利用ができるだけ“言葉の壁”を感じることなく訪日旅行を楽しむことができるよう自然公園の多言語対応の改善・強化を図る。」とされており、訪日外国人旅行者の快適かつ円滑な移動・滞在のための環境整備に努める必要があります。このため、「自然公園等施設技術指針の多言語対応（平成27年3月環境省自然環境局）」をまとめ、本標準表示例の2015年版を発行しました。

本書は、ユニバーサルデザインの考え方に基いて提供すべき情報と提供方法（表示方法）を整理するとともに、整備水準の平準化を図るための多言語化及びピクトグラムを用いた標識の標準表示例を示すことにより、自然公園内における公共標識のユニバーサルデザイン化を推進することを目的としています。また、自然公園における案内表記や情報提供技術に関する多言語対応について、一層の改善・強化を図ることを目的としています。

自然公園は、自然の風景地を保護し、自然に親しむ場として利用してもらうことを目的としており、その適正な保護・利用を図るために、情報発信は重要な役割を果たします。本書は自然公園に特有の環境を考慮し、次のような視点で作成しました。

■利用者の情報環境を想定し、各種の媒体による相互補完的な計画のなかで、公共標識に求められる役割を再認識し、活用を図る

■公共標識による情報の様式に統一性と一貫性を確保し、利用者の行動に合致した情報を提供する

■移動や施設の利便性に関わる情報をすべての利用者に提供することで、施設利用のユニバーサルデザイン化を図り、利用者の自律的な行動を支援する

はじめに・目次		1
表示に際しての原則	1. 標識表示の基本事項	2
	2. 書体・文字	5
	3. ピクトグラム	6
	4. 地図	9
	5. その他	11
標準表示例	1. 総合案内標識	14
	2. 案内図標識	17
	3. 誘導標識	21
	4. 注意標識	23
多言語対応ピクトグラム		25

## 表示に際しての原則

# 1. 標識表示の基本事項

- 公共標識の表示事項（地名、凡例や説明等）は、誰もがわかりやすいものとする。
- 使用する言語は、日本語と英語を表記することを基本とする。各自然公園等の外国人の利用特性に応じてその他の言語（中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、その他言語）を加えることとする。

## ● 外国人利用に対応した多言語表記

国際的に広く利用されている英語を全ての外国人が理解することができるとは限らないことから、外国人の利用特性を踏まえ、日本語と英語の表記を基本に、必要に応じてその他の言語を表記する。

その他の言語の選択にあたっては、以下の点を考慮する。

- ・自然公園を訪れる人の国籍の傾向
- ・外国人の文化の違い等による行動特性
- ・自然公園内外の一体的な対応（管轄する自治体等との調整）
- ・地域での外国人観光客誘致に係る条例や施策への対応
- ・自然公園への到達交通手段の状況（航路の新設・増設等）

ただし、国際事情や経済事情により、自然公園の来訪者の国籍の傾向が将来変わる可能性を考慮し、その他の言語の表記は最小限とすることが必要となる。

## ● バリアフリーに対応した表記

視覚障害者への情報提供のために点字表記、触知図を加える他、必要に応じて音声案内装置等の設置、案内標識や注意標識へのピクトグラムの利用及び難読漢字等へのふりがなの添付などの配慮を適宜実施する。

## ● 標準表示内容

公共標識のタイプ別の主な表示内容は、3頁の公共標識の標準表示内容のとおりとする。英語の表記方法は、4頁の英語の表記方法例のとおりとする。中国語については、表示スペースに制約がない場合は、簡体字と繁体字を併記することが望ましい。制約がある場合には、利用状況を考慮して選定し、表記する。

■公共標識の標準表示内容

種類	主な表示事項	表記言語の種類			
		外国人の利用が想定される施設		外国人の利用が想定されない施設	
		<基本的な表記> 日本語・英語を 表記する施設	<必要に応じた表記> 他の言語を 表記する施設		
記名標識	入口標識	公園名(団地名を含む)	日本語+英語	日本語+英語	日本語
	公園名碑標識	公園名(団地名を含む)	日本語+英語	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語	日本語
	資源名標識	地名、施設及び景観資源の名称、必要に応じて標高数値等の自然情報	日本語+英語	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語	日本語
案内標識	誘導標識	地名、施設及び景観資源等の名称、方向、距離、必要に応じて所要時間 勾配、路面状態、段差の有無など通行の難易度	日本語+英語 ピクトグラム*	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語 ピクトグラム*	日本語
	案内図標識	(地図を表示する標識) 主な地名、施設及び景観資源等の位置、名称、現在地、スケール、方位、必要に応じて距離・所要時間 障害者対応施設の位置 車いすで通行できる経路の明記			
	総合案内標識	(地図、解説文、画像等を表示する標識) 地図部分には主な地名、施設及び景観資源等の位置、名称、現在地、スケール、方位、必要に応じて距離・所要時間 障害者対応施設の位置 車いすで通行できる経路の明記 その他の部分には、図、写真及び地域の状況や自然の案内等の説明文	日本語+英語 ※日本語以外の説明文は原則として要約して概要を記載する ピクトグラム*	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語 ※日本語以外の説明文は原則として要約して概要を記載する ピクトグラム*	日本語
解説標識	解説対象の図及び写真、説明文	日本語+英語 ※日本語以外の説明文は原則として要約して概要を記載する	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語 ※日本語以外の説明文は原則として要約して概要を記載する	日本語	
注意標識	注意・警戒、禁止、フィールドマナー 難易度の変化点では、注意標識とともに、勾配、路面状態、段差の有無など通行の難易度を明記	日本語+英語 ピクトグラム*	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語 ピクトグラム*	日本語	
掲示板	(案内、解説、注意等の総括情報)	表題は日本語+英語 ※日本語以外の掲載文は原則として要約して概要を記載する	日本語+英語 +中国語(簡体字・繁体字)・韓国語・その他言語 ※日本語以外の掲載文は原則として要約して概要を記載する	日本語	
境界標識	公園及び地区・地域区分等の名称	日本語+英語	-	日本語	

\* 6頁ピクトグラム参照

■英語の表記方法例

分類	表示方法	日本語	英語表記例
一般的な固有名詞	日本由来	表音表記 ※常にヘボン式ローマ字を使用	日光 丹沢大山 蔵王  Nikko Tanzawa - Oyama Zao - o ※発音のしやすさ等から、oが重なる固有名詞はその間にー(ハイフン)を入れることが可能
	外国由来	外国語由来の原語部分を英語表記 ※人名の場合は、英語以外を表記できる	上高地ウェストン祭 南アルプス  Kamikouchi Weston sai Minami - Alps ※発音のしやすさ等から、複数の名詞等で構成される固有名詞はその間にー(ハイフン)を入れることが可能
普通名詞部分を含む固有名詞	普通名詞部分以外の表音を表示	普通名詞部分を切り離すと、それ以外の部分だけでは意味がなさない、不可欠な固有名詞として広く認識されている場合 ※意味・呼び名を正しく伝える必要がある場合は、ローマ字による表音表示に加え、普通名詞部分の表意表記をする	日比谷公園 ウトロ漁港 富士山 石狩川 琵琶湖  Hibiya Park Utoro Fishing Port Mt.Fuji Ishikari River Lake Biwa
			月山 立山 荒川 日光東照宮 伊勢神社  Mt.Gassan Mt.Tateyama Arakawa River Nikko Tosyogu Shrine Ise - jingu Shrine
			駅名や施設名として使用され、日本語による表音表記が確立している場合
日本由来の普通名詞	翻訳先言語に対訳がある場合	表意表記	本 茶碗 温泉  Book  Chawan (Tea bowl) ※普通名詞の表音表記は、必要に応じてイタリックでの表記が可能 Onsen (Hot Spring)
	翻訳先言語に対訳がない場合	表音表記した後に、説明的な語句を表記 ※日本語の表音が既に認識されている場合は、説明的語句は不要	合掌づくり  Gassho - zukuri
外国語由来の普通名詞	原語を英語訳して表記	カルデラ	Caldera

出典)「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(国土交通省観光庁・抜粋要約)に追記

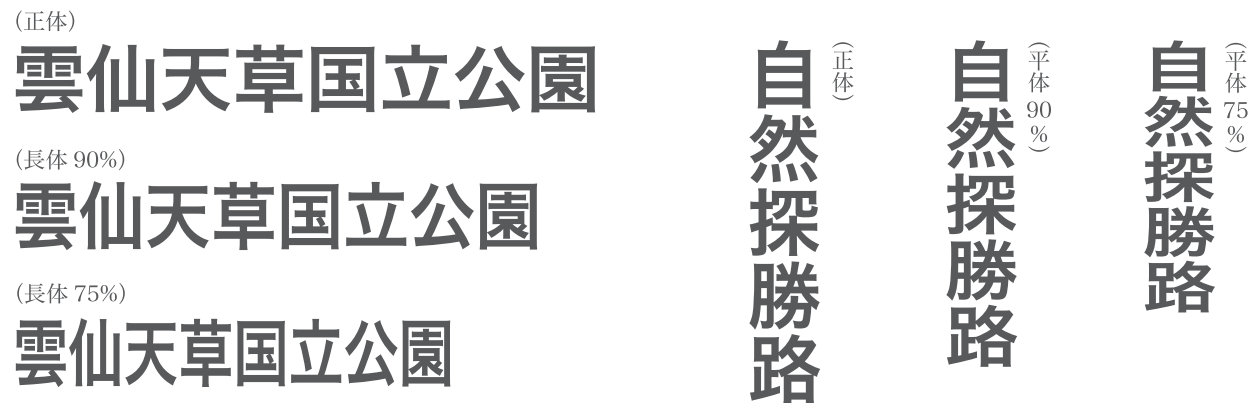
## 2. 書体・文字

### ● 書体

- ・日本語に使用する文字は、線幅がほぼ一定で視認性に優れた「角ゴシック体」を基本とする。
- ・比較的長い文章などの場合には、可読性を考慮して他の書体を用いることも可とする。
- ・英語・数字の書体は、日本語書体の角ゴシック体との調和を考慮するとともに、視認性に優れた「サンセリフ系書体\*」を基本とする。
- ・中国語・韓国語、その他の言語の書体は、角ゴシック体に準じた書体を選択することを基本とするが、各母国で標準的な書体がある場合には適宜選択する。
- ・長い名称など、表記スペースが不足する場合は、横組み表記では長体を、縦組み表記では平体を用いる。ただし、可読性が低下するため、過度の変形は避ける。

※ サンセリフ系書体：欧文書体のうち、文字の末端部にある爪のような装飾（セリフ）がなく、文字に使用する線の太さがほぼ一定である書体であること。

#### ■ 日本語角ゴシック体の例：ヒラギノ角ゴPro W6



#### ■ 英語 サンセリフ系書体の例：フルティガー(Frutiger 55 Roman)

ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ  
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789  
Unzen-Amakusa National Park

### ● 文字の大きさ

- ・文字の大きさは文字高で表す。
- ・英語の文字高は、日本語の文字高の3/4程度とする。

#### ■ 文字の大きさ(文字高)



## 3. ピクトグラム

- 抽象化・単純化された絵を用いて多くの人に共通の事象を示す視覚伝達手段であり、情報伝達の国際化およびユニバーサルデザインの観点から、ピクトグラムを積極的に活用した情報提供を図る。
- 「JIS Z 8210 案内用図記号」や「標準案内用図記号ガイドライン」による一般的なピクトグラムのほか、自然公園に特有の事項を表すピクトグラムを使用する。

### ● 自然公園の公共標識で使用するピクトグラム

- ・本書の7頁と25～26頁に自然公園の公共標識に用いるピクトグラムの一覧を掲載する。

### ● 色彩

- ・標準案内用図記号ガイドライン、JIS Z 8210に色彩が規定されたピクトグラムは、色彩を変更せずに用いる。
- ・ピクトグラムを案内図上に表示する場合は、視認性を考慮して黒地に白図のネガ表現を原則とする。背景の明度が低い場合は、ピクトグラムを白の枠線で囲み視認性を高める。
- ・モノクロのピクトグラムを誘導標識に表示する場合は、白地に黒図のポジ表現を原則とする\*1。
- ・案内図上で用いる案内所、情報コーナー、お手洗など利用者の利便性に係るピクトグラムは、一般施設との区別を明確にするとともに、視認性を高めるため、青地に白図のネガ表現とする。

※1 「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」より

#### ■ ピクトグラムの色彩例\*2

種類	安全(防火・緊急)	(禁止)	注意(明示)	指示(誘導)	安全(避難・救護)
基本形状*3					
	赤		黄	青	緑
色	正方形の内部を赤で塗りつぶす	縁および内部の斜線部分は赤とし、その他は白とする	三角の部分は黒とし、内部は黄色とする	円の内部を青で塗りつぶす	正方形の内部を緑で塗りつぶす
マンセル値*4	7.5R 4 / 15		2.5Y 8 / 14	2.5PB 3.5 / 10	10 G 4 / 10
参考：CMYK値*5	0 / 100 / 100 / 0		0 / 20 / 90 / 0	100 / 60 / 10 / 0	100 / 20 / 70 / 0

※2 「JIS Z 8210」より作成

※3 表中の色は印刷により実際の色とは異なるため、色見本等による確認が必要である。

※4 マンセル値：色彩を色相・明度・彩度の3属性属性により定量的に表す国際的な尺度。ここでは、JIS Z 9101（安全色および安全標識）に規定された値を示す。

※5 CMYK値：一般的な印刷に用いられる4色のインク（C:シアン、M:マゼンタ、Y:イエロー、K:ブラック）のかけあわせにより色を再現する方法で、「プロセスカラー」ともいう。ここでは赤・黄・青色・緑色のマンセル値の近似色として、「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」に示された値を示す。

#### ■ ポジ表現・ネガ表現



#### ■ 利便性に係る施設の表現





● 文字の併記

- ・「多言語対応のピクトグラム」(25～26頁)のうち、文字による補助表示が必要とされているものと全ての「自然公園独自のピクトグラム」には、ピクトグラムの意味を文字で併記することを原則とする。
- ・文字は、「公共標識の標準表示内容」に基づき、日本語と英語で表記する。各自然公園等の利用特性に応じて、その他の言語(中国語、韓国語、その他言語)を加えることとする。
- ・地図上にピクトグラムを表示する場合は、文字による補助表示が何箇所も掲出されることを避けるため、凡例にまとめてピクトグラムの意味内容を文字で表記する。
- ・利用者の安全性確保を重視する場合は、外国人利用も含め、誘導標識や注意標識のピクトグラムの意味内容を文字で表記することも検討する。
- ・ピクトグラムに文字を併記する場合は、日本語文字高を4とした場合、英語文字高を3、ピクトグラムの外形枠を9の比率で表示することを原則とする。

■ピクトグラムの文字併記例



● 文字、ピクトグラムの表示方法

- ・案内図上で用いる文字やピクトグラムは、高齢者や弱視者にも判読しやすいよう、できるだけ大きく表示する。ただし、地図上に表示された施設類が多い場合や、地図の縮尺が小さいなどの場合は、文字やピクトグラムによって地図情報が隠れてしまうことがあるため、下に示す文字・ピクトグラムの大きさを参考にし、最低限必要な大きさに配慮する。
- ・一度に認識できる情報量には限度があるため、場合によって情報量を減らすことも考慮する。

■ 地図上に表示する文字・ピクトグラムの大きさ例

視距離	和文文字高	英文文字高	ピクトグラム	和文	英文
30mの場合	120mm以上	90mm以上	凡例部表示	24.0mm	10.5mm / 8.0mm
20mの場合	80mm以上	60mm以上	特大サイズ	—	18.0mm / 14.0mm
10mの場合	40mm以上	30mm以上	大サイズ	21.0mm	9.0mm / 7.0mm
4～5mの場合	20mm以上	15mm以上	中サイズ	16.5mm	7.0mm / 5.5mm
1～2mの場合	9mm以上	7mm以上	小サイズ	12.0mm	5.0mm / 4.0mm

「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」より

「地図を用いた道路案内標識ガイドブック」より

- ・視距離50cmを想定
- ・案内所、情報コーナー、都道府県庁、市町村役場、博物館など、移動の目的地となる主要な施設の表示には、大サイズを用いるよう示されている。

視距離	40m	30m	20m	10m	5m	1m
ピクトグラム基準枠寸法(mm角以上)	480	360	240	120	60	35

■ ピクトグラムの組み合わせ・左右の反転

- ・施設の複合的な機能を表す際には、ピクトグラムを組み合わせることができる。
- ・ピクトグラムの向きと実際の位置関係が矛盾する場合には、図形の左右を反転することができる。
- ・ピクトグラムを組み合わせる場合は、下表の比率を原則とする。

組み合わせの原則	組み合わせ例
	<p>身障者対応のお手洗</p>
	<p>身障者・乳幼児用施設を備えたお手洗</p> <p>身障者・乳幼児・オストメイトに対応したお手洗</p>

左右反転例(お手洗)	
	<p>実際の位置関係に対応した表記(左右を反転)</p>

### 1. 施設表示等

- 自然探勝路、園路、歩道  
Nature trail / Footpath
- 登山道  
Trail / Hiking trail
- 避難小屋  
Shelter hut
- 山小屋  
Mountain lodge
- ビジターセンター  
Visitor center, Nature center
- 自然保護官事務所  
Ranger station / Ranger office

### 2. 禁止・規制、警告、指示、マナー等

- 悪路のため足下注意  
Rough terrain! Watch your step
- 落石危険・頭上注意  
Danger of falling rocks!
- 危険・火山性有毒ガス注意  
Toxic volcanic gas!  
雨天時注意・土石流危険渓流  
Danger of landslide when raining 等

### 自然公園独自のピクトグラム

- 危険・ヒグマ出没中注意  
Warning! Bear habitat
- 落枝注意  
Caution, falling twigs
- スノーモービル等乗り入れ規制区域  
Snowmobiles prohibited area
- 自動車バイク等乗り入れ規制区域  
All motor vehicles prohibited area
- モーターボート等乗り入れ規制区域  
Motorboats prohibited area
- 花を採らないでください/採らない  
Do not pick wildflowers or damage plants
- 動物を獲らないでください/獲らない  
No hunting or fishing / All wildlife is protected from hunting or harassment
- 野生動物に餌を与えないでください/与えない  
Do not feed any wild animals / Do not feed and handle wildlife
- 自然を大切に / 自然を大切にしよう  
Care for nature 等
- 歩行中禁煙 / 吸わない  
No smoking while walking

### 3. ユニバーサルデザイン

- 焚火禁止 / 炊かない  
No lighting fires! / Fires are not permitted
- ペットの持ち込みはご遠慮ください  
No pets / No pets allowed
- 爆竹などの花火類禁止  
No fireworks / Fireworks including firecrackers are prohibited
- 勾配5%以下  
Slop 5% maximum
- 勾配8%以下  
Slop 8% maximum
- 勾配8%以上を含む  
Includes slop over 8%
- 手すり付きトイレ  
Toilet with handrails

# 4. 地図

- 総合案内標識および案内図標識に、詳細を示す「主地図」と、広域の情報を俯瞰する「副地図」の2種を組み合わせる表示する。
- 表示範囲や縮尺については、利用者にとって必要な情報を見きわめたくうえで適切に設定する。

## ● 地図の種類と目的

総合案内標識、案内図標識	主地図	利用者の現在地、および周辺の施設・資源等との位置関係を把握する
	副地図	主地図に示された範囲の広域における位置関係を大まかに把握する

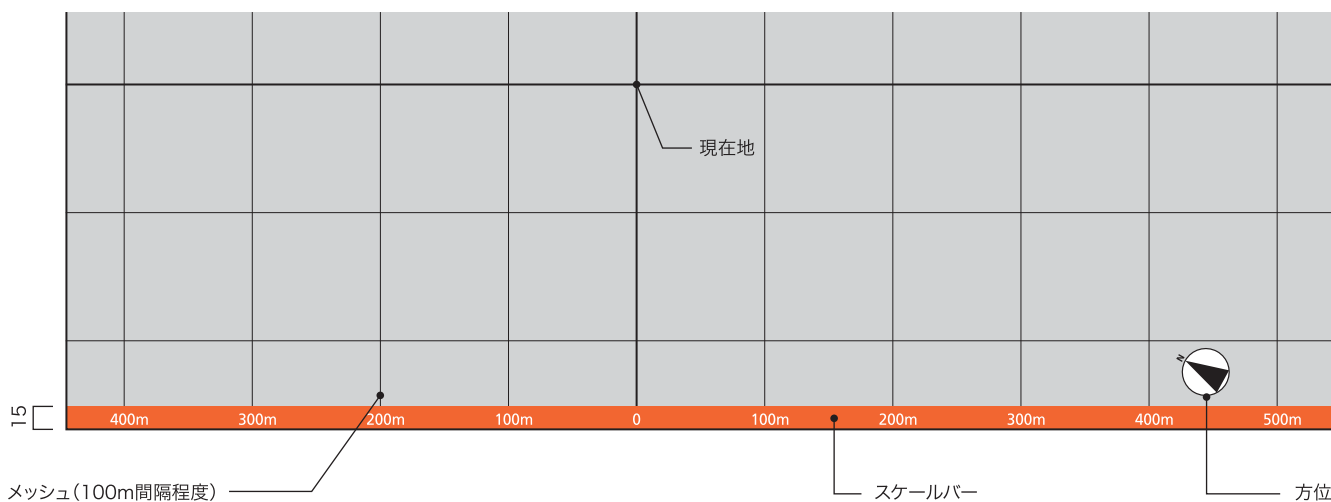
## ● 色彩

- 地図に用いる色は、色数が増えると煩雑になるため、多くの色を用いないことが望ましい。
- 色どうしの明るさのコントラスト（対比）を十分大きくすること等により、高齢者や弱視者などにもできる限り識別しやすいよう工夫することが望ましい。類似の色がどうしても隣り合う場合は、色面の境界に白または黒の縁取りを行うなどの措置を講じる。
- 文字やピクトグラムは基本的に黒と考えられるため、これらの背景に明度の低い（暗い）色が配置されないようレイアウトを工夫する。どうしても重なり合う場合は、文字やピクトグラムに白の縁どりを行うなどの措置を講じる。

## ● メッシュ、スケールバー、方位

- 主地図の地図上に、現在地を始点として100m間隔程度（副地図は数km単位程度）で縦横のメッシュを表示する。地図の見やすさを考慮して、線の色は黒を基本とし、幅はできるだけ細くするが、現在地で交差する線をやや太く表示することで、現在地の誘目性を高める。
- 地図の下端または上端に、一定幅の色のラインを配置し、スケールバーとする。ラインの色は現在地表示と同色を基本とし、幅は10～15mm程度とする。距離の表示は、現在地点をゼロとし、メッシュと対応した位置に表示する。
- 地図の邪魔にならず視認しやすい位置に、方位の表示を行う。使用するマークの形は任意とするが、できるだけシンプルな形状のモノクロ表示を原則とする。また、背景の明度が低く識別しにくい場合は、マークの周囲に細い白線を付加するなど、視認性を高める措置を講じる。

### ■ メッシュ、スケールバー、包囲の表示例(単位:mm)



## ● 現在地の表示

- 現在地表示は最も視認性の重要度が高いため、誘目性の高い赤で表示することを原則とする。
- さらに視認性を高めるため、表示の周囲に白線の縁取りを行うことを原則とする。

### ■ 現在地の表示例(単位:mm)



※ 「現在地表示の色を赤にしている例が多いが、一般的に最も彩度の高い赤(0/100/100/0)は、視覚障害者にとって黒文字や黒線と区別しにくいために目立って見えないことがある。このためオレンジ寄りの赤(0/75/95/0)を用いることが望ましい。」(「カラーバリアフリーサインマニュアル」平成21年 神奈川県 より)

## ● 凡例の表示

- 地図上に表示されたピクトグラム等の記号について、凡例で説明する。
- 凡例は日本語と英語で表記する。各自然公園等の利用特性に応じて、その他の言語（中国語、韓国語、その他言語）を加えることとする。

### ■ 凡例のレイアウト例(単位:mm)

